



子どもたち一人一人が笑顔ですごす学校をめざして



コンサートや演劇から思うこと、学ぶこと

昨年の12月19日、以前に折尾東小でマリンバのミニコンサートをしてくださった白井小百合さんが、折尾東市民センターの「人権市民講座 マリンバコンサートと講話」にお母様と一緒に来てくださいました。

小百合さんは現在、特別支援学校の高等部に在籍しながら、国内や外国でマリンバの演奏をされています。当日も、小百合さんが一生懸命にまた楽しそうに演奏してくださいました。その姿は私たち観客の心にすっと入ってきました。そして何ともいえないあたたかい満足感を感じさせていただきました。小百合さんは音楽が大好きで、毎日マリンバの練習も欠かさずにしているそうです。演奏の腕前も素晴らしく、観客からも「すごいなあ。」という声が漏れていました。

また、演奏の合間に、お母様が小百合さんのことやこれまでの子育てのことを話していただきました。はじめは悩んだり涙を流したりしたこともあったそうです。それでも、小百合さんの素直さやひたむきさに、「この子が好きなことをして楽しく生きていってほしい。そしてその姿が他の人の役に立つのなら、そのような活動をこれからも進めていきたい。」という思いで前を向いて進んでおられる姿は私たちに大切なことを考えさせてくださいました。本当によいコンサートとお話であったと、多くの参加者の方が感想を述べられていました。



そして12月25日は小倉のソレイユホールで開かれたチャンチャン劇団の定期公演に行ってきました。チャンチャン劇団は市内に住む知的障害のある方の劇団で、市内はもとより全国各地や海外で公演を行っています。今回は第22回目の定期公演でした。「個性を磨けば誰もが主演」を信条に楽しくユニークな劇で、観客を楽しませてくれます。劇を見ながら、演じている団員のみなさんは、本当に楽しそうで、一生懸命で、一人一人が輝いています。劇の合間にいただいたパンフレットを読んでいて、団員のみなさんが輝いているひみつを知ることができました。それは、

団員の頑張りを支える多くの人たちがいることです。団長さんをはじめ、脚本を書く人、ポスターや背景画を描く人、大道具や小道具をつくる人、音響を担当する人、衣裳をつくる人、ナレーションをする人、様々な活動をこなす保護者会の人、様々な人々の支えがあってこそ素晴らしい舞台だということに改めて感じました。

「一番の陰の立役者は、団員の家族に他ならない。時間も使うし遠方の講演ではお金も使う。あくまで余暇活動であり教育や訓練の場ではないから、何かの力をつける保証もない。劇団を支える様々の雑用もある。家族の状況や事情はそれぞれ違い、できることとできないことも違う。ただ一点、団員たちを精いっぱい輝かせ、充実した人生を送らせたいと願う。」パンフレットに書かれたこの言葉は深く心に残りました。これは劇団だけではなく、複数や組織で何かを行う時に共通して大切なことだと思いました。



一つのコンサートと演劇で、とてもよい時間を過ごし、大切なことを考えることができた年の瀬でした。

委員会活動

5・六年生の児童は毎月一回、委員会活動を行っています。委員会活動は上級生として学校を支えていく大切な活動です。これから委員会活動の様子を何回かに分けて紹介していきます。

☆環境委員会

環境委員会は年間を通して、ペットボトルのキャップ、リングプル、空き缶の回収のお世話をしています。1月9日(金)には全校児童がもってきてくれたペットボトルキャップを折尾東市民センターに届けてくれました。

